令和８年度　第１回芦屋市立美術博物館協議会　会議録

日　　時	令和８年８月２５日（火）１５：００～１７：００
場　　所	芦屋市立美術博物館　講義室
出 席 者	会　長　岡　泰正 副会長　飯尾　由貴子 委　員　鈴木　敬二 委　員　吉田　晃典 委　員　安部　太一郎 委　員　藤山　哲朗 （芦屋市立美術博物館指定管理者） 芦屋市立美術博物館　砂田　円 学芸員　川原　吉貴 学芸員　小林　麻衣子 株式会社小学館集英社プロダクション　今宮　彩夏 グローバルコミュニティ株式会社　浅倉　芙凪 （事務局） 国際文化推進室長　田嶋　修 国際文化推進課係長　中村　達也
事 務 局	国際文化推進課
会議の公開	■　公開
傍聴者数	０　人

１　会議次第

（１） 議題

１） 令和７年度下半期事業報告について

２） 令和８年度上半期(４月～７月)事業報告について

３） 展示状況について

（２）その他

２　提出資料

会議次第

委員名簿

資料１　2025 年度　事業報告書

資料２　2025 年度　展覧会実績

資料３　2025 年度　入館者数内訳
資料４　2026 年度　事業報告書
資料５　2026 年度　展覧会動員実績
資料６　2026 年度　入館者数内訳

３　議題報告
（事務局：中村係長）
それでは、一つめの議題について資料 1、2、3 をもとに説明いたします。説明につきましては、市立美術博物館担当者よりご説明させていただきます。

〈芦屋市立美術博物館　砂田館長から令和７年度下半期事業報告について説明〉

（岡会長）
ありがとうございました。事業報告がありました。これにつきまして、ご意見ご感想と質問ですね。鈴木先生、よろしくお願いします。
（鈴木委員）
本当に面白いなと思ったのは、講演後に移動してお店に行って、また開催したというのが非常に個性的ですごいなと思いました。以前私ども、博物館で日本酒に関する展覧会やらせていただいたときに、杜氏さんに来ていただいて講演していただいたり、麹を作る職人さんに来ていただいたりしたことがあったのですが、直接お酒を扱う、提供する方に来ていただいて、また移動して店舗に行って飲める、つまり何かっていうと直接的にお酒が楽しめるようなイベントをするっていうのが、公立美術博物館としてやるには少し勇気いるなと思いました。少し思い切ってトライされているっていうところが、興味深いなというか大人の楽しみを提供されているのじゃないかなということでそこを興味深く感じました。あと山崎隆夫の展覧会では、関西でまとまった展示で満足点が高かったっていうふうに伺っていますけどそれぞれどうでしょう、展覧会での意義などきちっと整理されていると思いますので、口頭でも構いませんので伝えていただければと思いました。人数だけではなく、展覧会でこういう意義があったっていうことを知るっていうことが非常に運営にとって重要ではないかなと僭越ながら思いまして、そこを感じた次第でございます。あともう 1 点ですね、以前同じ質問をしたかもわからないのですが、コンサートを幾つかやってらっしゃいましてその音楽家、演奏家の選択ってどのようにされているんですか。教えていただいたら、よろしくお願いします。
（事務局）
ロビーコンサートにつきましては、兵庫県の芸術文化協会の助成金を頂戴しまして開催したサックスとピアノのしらべです。
（事務局）
こちらからご依頼させていただくっていう形が多いですね。浮世絵に関しては、琴とか尺八っていう音のイメージ、やっぱり基本があるっていうことでイメージが合う。そういう音楽をされていないかいろんな方に声掛けさせていただきました。
（鈴木委員）
ありがとうございます。
（飯尾委員）

1 つの展覧会で、そこから音楽から映画から全方位的に、関連のイベントをされていて順調にされているなと思いました。カクテルのイベントは非常に興味深く、食でお客さんを引っ張ってくるのは重要なことかなと思いました。会場が別だということなのですが、これは展覧会鑑賞後に一緒に行きましょう、というような企画だったのでしょうか。そのあたりの運営についてお聞かせください。それから、浮世絵展で企画された塗り絵ですね、塗り絵も今非常に大人子供に人気があるもので、こういったことも浮世絵の色使いなどを体験できるすごくいいイベントかなと思います。5 ページに講演会、講座等でまとめられているのですが、これが上半期になっていますが下半期の方はまた別に記載されているという事でしょうか。

（事務局）

最初にご質問いただきましたカクテルのイベントにつきましては、2 時から 3 時半と、4 時から 6 時という時間帯 2 つに分けて参加者を募集しまして。実際店舗の方に移動して、バーテンダーさんからお話を聞くっていうような企画でした。また、それだけの参加者もいました。

（事務局）

下半期については 3 ページ 4 ページ見てもらうと、記載しています。

（吉田委員）

普段来ない人が来るような企画とかやったらいいじゃないかと思いました。今回この委員会で初めて知ったのですけど、小プロさんで指定管理が始まったので、その辺りのＩＰとかいろんなコンテンツもあるということで活かしていただけるといいなと思いました。あとは、民間の展示をいつも市の展示とか、外部のデータとかあると思うのですけど、ＫＰＩみたいな方を考えて、組み立てておられるのかはちょっと知りたい。例えば年間の定時展示で、いろんな目的があるとは思うのですけど、どういった目的で、何かこれぐらいの動員を達成しようとか、何か逆にこういう市のイベントがあったらいい。そのためのですけど年間で、どう考えていらっしゃるか、1 個はそういう外部処理の規格を入れるとか、1 個はしない、ベンチャーとかそういうのをされているかっていうところはお聞きしたいなと。

（田嶋室長）

市の方から 1 つ、回答させていただきます。今回指定管理ということで、仕様書で年間に必須事業の記載があります。その中で、1 つ言いますと芦屋というのは「具体美術」を行うこととなっています。その他、仕様書に具体的には造形教育展や 2 年に 1 回であれば芦屋市展があります。指定管理者で、この美術博物館に、芦屋にゆかりのある展示を行う。ということになっています。指定管理者の方が、年に 4 回であり、5 回の想定の特にこういうものがいいのかなっていうのは、選定して計画、企画しています。

（吉田委員）

来館者を増やすとか、こういうゆかりのあるものになるのは、わかったのですけども。具体的な人数の設定などはない？

（田嶋室長）

指定管理者から、年間計画でこの展示にはこのぐらいの来館者を見込んでいると提示します。年間で何万人っていうのは先ほどお話あった大体何万人で、無料が何人、有料が何人というのが、報告があります。そういった目標値っていうのは設定していて、年度が終わって決算の時にその数字がどうなったかっていうので、先ほど猫の特別展のお話があったのですけども。予想していたよりも、たくさんの方にご覧いただきました。

（吉田委員）

猫。興味があってというか、家族でいこうみたいな話があったのですけど、来館者がふえたことがどういう理由であったのかと分析したことは特にはないのですか？
（事務局）
今後、分析をしながら、対応はしていく必要はあると思います。
（岡会長）
安部先生お願いします。
（安部委員）
毎回、展覧会は来させていただいています。猫の話もありましたけど、具体美術とか山崎隆夫さんの絵とか、結構バラエティーに富んだ展覧会が毎回されていまして、非常に僕は楽しみにして来ています。で、学校教育っていう観点で、やっぱりこの協議があります。いろんなところでちょっと、いろんな観点で見ているのですけども、まず猫のときもそうですけど、山崎隆夫さんや浮世絵のところでも以前から話が出ているかもしれないのですけど、作品のタイトルにルビがない。それから子供向けのちょっとした解説が欲しいとか、それから子供の鑑賞のワークシート。ごく簡単なものでよいのでそういうのがあれば、来館した子供たちも余計より楽しめるかなあというのは前も話をしていて、そのところで見ていたら、どの展覧会でもちょっとなかったかなぁと。特に例えば猫の展覧会なんかはうちの学校の子供達も見に行っています。実際子供達が行ったって言っていたのですけど、やっぱその子供の声を聞いていたら何人か、ご家族と行ったりしているので、そういうときに作品を見るっていう観点と、そこで楽しめるもの。ワークショップももちろんあるのですけども、そこで観賞のワークシート、すごく簡単なものでいいのですけど、自分なりに探してみようみたいなゲーム方式みたいなものがあれば、作品を見ながら家族で何か探してとか、この部分探すとかでまた会話が生まれてくるので、こう見るっていうところがどんどん変わってくるとは思います。先ほども別の店舗でコラボとかすごく面白いなあと思って、こういう企画で導入されたらいいかなあというふうに思います。子供が来るという展覧会、もっとふやしてくれていたら、家族で見に行こうとなって市の美術博物館の周知に繋がっていく。その点のところは、今回、確かにルビとかもなかったかと思いますのでそういうところはちょっと意識していただけたらなと思います。
（岡会長）
はいありがとうございました。
（藤山委員）
資料の 2 について、来館者のところで、ちょっとよくわかんなかったのがその他っていうのはどういう方なのかその他のところ、人数がすごく多いところ少ないところとかがあるので、これはどういうことなのか。
（事務局）
これは、前庭で開催した手作りマーケットやワークショップを行う「つくるとば」など、庭のイベントへの来場者数です。展示室の観覧者数とは区別して集計しています。
（藤山委員）
わかりました。
（岡会長）
議題 1 につきましては私の方は、山崎隆夫がやっぱり一番よくて、もうちょっと、何とかお客様来ないのかなあというのがですね、いかにも芦屋市に似合っているっていうかですね。この美術館でよく似合っているよねっていうのはやっぱりデザインで、全体の建物がモダン建築みたいな、国際文化の作品見

るような、この建物自身がモダンな作品なのですよね、内装もそうですよね、モダンデザインに似合う。山崎隆夫の商業ラインと、今のこの建物とか、うまくコラボしている感じがあってですね、芦屋によく似合っていたと思います。具体の展覧会のときも、ホールですねアトリウムも使って、インスタレーションをやりましたよね。非常に巨大なインスタレーション、ああいうものに、建物全体を使うという感覚は本当によく似合っているこの美術館。モダンアートとかよく似合うということを思いました。具体美術で皆、食わず嫌いみたいな、何とか芦屋に来てよっていう、起爆剤がないのかなあとか思います。逆に言うとそういう人達が来る目玉をどうアピールするかっていうことを考えないと、入館者の点で、もうじり貧になっちゃう。まずは、この建物のファンになってもらう、というのを考えていただきたいと思いました。逆に言うと、その浮世絵はちょっとミスマッチみたいなことになっちゃうので、そこをうまく、モダンアートミュージアムと伝統的な作品を融合させる。私なんかずっとそんなことを演出で神戸市立博物館で考えてきたのです。芦屋の展覧会全体としては、限られた予算の中で限られた人数でよくやられていると思います。
では議題２の方にうつりたいと思います。令和 8 年度上半期、4 月～7 月の事業報告ということでご説明いただきたいと思います。
（中村係長）
それでは、芦屋市立美術博物館担当者よりご説明をさせていただきます。

〈議題２　芦屋市立美術博物館　砂田館長から令和 8 年度上半期 4 月～7 月の事業報告について説明〉

（岡会長）
ありがとうございました。この 4 ヶ月、この展覧会関連事業で、企画展関連イベント座談会で、登壇者高島芦屋市長とあってこれは、何についてこの議題というか話題は何を、これはどれに関連する？展覧会？
（事務局）
展覧会ではなくて、市長が登壇者で学芸員と市民の方と一緒に美術博物館について話をするというイベントです。
（岡会長）
それで、市長 1 人でこれ 44 名。人数はその程度ですか。
（事務局：中村係長）
会場のキャパの兼ね合いから、人数がその程度になったということです。会場のキャパシティーについては多くて 60 名程度というところです。会場のキャパシティーに関係ない場合は、ネームバリューからするともう少し人が集まっていたかもしれません。
（岡会長）
議題的にその市長が出てくるというのが僕はちょっとわからなくて、このコレクションを何とかしようというテーマですか。これではわからない。みんなで美術館について語ろう。みたいな感じですか。もう少し教えて欲しいです。
（田嶋室長）
コレクション展ということで 35 年目ということがありますんで、こういう美術博物館が新しくここで建つことになってからですね、今に至るまでの歴史を振り返りながら、この美術博物館がどういった変遷で、今に至るのかや今後、その美術博物館はどういった位置付けで市民の方に利用して活用してもら

える施設にというようなお話をする内容などです。
（岡会長）
傍聴人がみんなで考えておくみたいなことですね。どこかで確認できたりできますか。
（田嶋室長）
ＹｏｕＴｕｂｅに映像を流す予定にしております。
（岡会長）
根本的な問題ですよね。
（鈴木委員）
コレクションの展覧会を拝見しました。協議会のときに学芸員の方がその時はコレクションと同時に収蔵庫の問題と、コレクションの破棄ということが、全国的にニュースになっていたときだと記憶していまして、そういうコレクションの問題と収蔵庫の問題にもちょっと切り込んでいくんだっていう事をおっしゃっていて、美術博物館としてすごくどういうふうな切り口で展示されるのだろうと興味深く思っていたので、それで、拝見しに参りました。すごくよかったなと受けとめました。美術博物館の歴史として美術博物館の良いところ、良いときのことですとかしんどいときの事ですとか本当に赤裸々に表示してあって、そういったような、今、すべてのことを含めた美術博物館の成立から、今に至る歩みが理解でき、その中でコレクション形成過程ですとか、収集方針形成過程が説明されてこれも論文みたいなバーッと読まなきゃいけないのではなく、それぞれの解説パネルで見たらわかるようにというふうな構成がすごくよくできているなと思います。美術に関することは本当に素人なのですが、展覧会をひとつ見終わった時点で、美術館博物館がそれからコレクション収集方針や形成過程がこうなっているのだなっていうのが何となくわかる。なおかつこれ、コンテンツとしても満足できるものだなというふうに感じました。美術館博物館のコンテンツだけじゃなくてそのマネジメントについても、伝えられているなっていうことがすごくよくできているなと思って拝見しました。お客さんの数がそんなに伸びないかもしれないのですけど、博物館としてやるべき展示がされているなというふうに感じました。美術館の良いところとかしんどいときとかのことも展示されている、ネガティブな面も含めてオープンに展示されているっていうことでそこは感心しましたし、本当に美術館博物館のことを理解してくれる方っていうのはそういうところも、情報をオープンにしたときに本当の理解というものが生まれるのかなと思います。そういうふうにできた理解者っていうのは、今後もあまりないと思うのですけど博物館がしんどい時になっても多分応援してくれるのではないかなというふうに思われ、そういう意味でこの点がやられて良かったんじゃないかなと個人的にちょっと気分が盛り上がったという記憶がございます。
（岡会長）
良い意見でございました。
（飯尾委員）
私コレクションの展示はちょっと拝見できなくて本当に申しわけありません。タイトルが非常にすばらしく、やっぱりコレクションは美術館の根幹であり、幹にあたる部分なので、それを「樹」と表現されてコレクションを紹介する非常によい企画だったと思いました。また、この芦屋市の図書館近隣の施設と連携されて企画をイベントされていて、こちらもよく考えられているなと思いました。質問ですがトークフリーデーですが、毎週水曜日とありますが、これは会期中だけですか。それとも年間通してやられているのか。
（事務局）
会期中の毎週水曜日に開催しております。

（岡会長）
私の考えとしては、ギャラリートーク講師とかについても、当館学芸員だけではだめで、名前をいれて個人の人格があるので学芸員もその他大勢がないので、もう本当にこれは学芸員の仕事というのは、誰でもできるっていうわけではないので、その人の個性があって、その人だったら聞きに行こうとか、スターキュレーターというのを作っていかないといけないのですよ。その人の話は面白いから聞こうとかですね、そういうのを育てていかないといけません。
（吉田委員）
この 2026 年の企画で、市からゆかりのものみたいなのとそれ以外みたいな形でされているということなのですが。コレクションとか具体とか何かこの、芦屋ゆかりのところかなと思うのですが。2 番とか 3 番というのが新しく今回企画されたっていう感じなのですか。
（事務局）
はい。
（吉田委員）
浮世絵とか、前回、前年度と一緒なんでちょっと変わってないじゃないかな。
（事務局）
今回は北斎と広重です。
（吉田委員）
わかりました。だけどその何か、見込みがあるとおっしゃっていたのですけど、何かこの事業報告、見込み人数と実際どうだったかみたいなのも入れられてもいいじゃないかなと思いました。
（安部委員）
はい。コレクションもそうなのですけど本当に大きい立体映像平面、たくさんの作品があって、すごく見応えがあって、とても楽しめたと思います。それで、先ほどお話あったように教員向けの研修がこの 7 月 31 日にありまして、西宮市の中学校の先生と、芦屋市の小学校の先生が参加して、作品を見ながら対話型の鑑賞みたいな形でさせてもらいました。なかなかその教員が集まる美術の研修、こういう形ですることないのでとても有意義な時間になったと思います。私以外の先生もすごく楽しかったっていうのと、私も先生との交流ができたことで非常によかったなっていうふうに思いました。ワークショップ街をつくろうという内容もあるのですけど、子供と家族が一緒に参加してできるようなワークショップもありますのでこういうのもこれから、どんどん入れていただけたらいいかなって思いました。以上です。
（岡会長）
ありがとうございます。
（藤山委員）
僕ちょっと立場がないので次行かしてもらいます。今回のコラボの方はすごく楽しかったと。今日話もありましたけれど、そうするとちょっと、これまでの話を聞いていると、どうしてもやっぱり制約があるとか、先ほど仕様書の話とかもおっしゃっていましたけれども、そういう内容があるのでどうしてもあまり自由にできないところあるんだなっていうのはわかってきたんですけども、でも、お客さんの立場からするともっと何か自由にやってもらいたいなと思います。具体は大事だと思いますけれども。毎年じゃなくてもいいよとか市民とすると感じます。現代美術なんかやっては欲しいのですけども、具体もその中に入ってくるかと思いますけど、ここもちょっと何かもう単純に初めて現代美術を見る人が楽しめるこんなことをやってもいいんだみたいなそんなやつがあったらいいなっていうのは、常々コレク

ションを拝見させていただきましたけどもやっぱり、どうしても何か、何となく前から感じていたのはやっぱり、ここ美術博物館ですごくなんか教育的だなっていう気がしていて、ちょっとすごくこう真面目な感じがして、どうしても何かこう勉強させてもらいに行く、そんな感じは常々していたっていうのが正直な意見です。で、普通のお客さんにとって美術館っていうのは、絵とかも見るけどもあと、絵を見た後にちゃんとカフェに行ってとかあと一番大事なのがミュージアムショップでそこで何かこう、土産を買うっていうのがセットで、それプラス美術館に行ったらそこでこんなことをしたよっていうのＳＮＳにあげるっていうのが、今の美術館だなっていうふうに思っているのでそういったところがもっと芦屋でもできるとそれこそなんかもう、いろんなところから人が来てくれてもっと、集客できるっていうふうには思っています

（岡会長）

ありがとうございます。私はずっとそういうことを考えていて、どうしたら公立の美術館でも、グッズの購入があるかが重要です。ほしいグッズがあれば、美術館でお土産を買って帰って 6000 円、8000 円、当たり前みたいに使うんですよね。もっと自由に学芸員が発表の場を設けて研究発表であり、なおかつそれがエンターテイメントなものに繋がるように起爆していくということが、そういう事に予算がつくということが大事かなあと、本当に思っています。我々小美術館は、常にそれを考えておりまして、赤字にならないように考えながらやるのですけれども。儲かる展覧会はありません。ですけれども、何とかそこに足を運んでもらって、ファンになってもらおうということがですね、指定管理のコンセプトで、それが手かせ足かせになっていてはいけないなと思います。皆さん伺いましてすごくいい意見が出ましたので我々の気持ちはそういうところでございますが、展覧会をご説明いただくのをちょっと圧縮して、はい。ご説明いただくのですよね。

（事務局：中村係長）

議題 3 の展示の状況についてっていうところにつきまして、実際に移動していただきながらですね、実際に見ていただきたいと思います。こちらから移動になりますので、貴重品等をお持ちいただいて、今からご移動いただいてもよろしいでしょうか。では、詳細は、当館学芸員からご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

〈芦屋市立美術博物館　小林学芸員がチェコ絵本の作り方について展示を観ながら説明〉

（事務局：中村係長）

そしたら講義室の方に、今から戻りたいと思いますよろしくお願いいたします。

（岡会長）

ご説明をいただきました。

では皆さん、一言感想お願いできますか。

（鈴木委員）

一言で表すのは難しいなと思います。

全部見られなかったですけど、すごく楽しかったです。

（岡会長）

もうよそでやったばっかりなので、私もそれずっと思っていたのですけど。結局、絵本原画を選んで、絵本原画のすべてのストーリーを見せる。で、その絵本が売っているので、その辺を買ってもらう。

もうそれしかないんじゃないんでしょうか。ボローニャにしてもチェコにしても、固有のファンがおら

れる。また、幼児教育の人たちがね、興味を持たれて。それを美術館として見せるのか、あるいは夏休みの子供さん向けの子供も理解できるような、楽しめるようなものをするかということが力の見せどころだったのかなというところがあります。どうですか。
（飯尾委員）
岡先生がおっしゃったように絵本の展示は本当に難しいなと思いますが非常にチャーミングな展示で、会場構成に非常に凝られていて。すごく楽しめる展示になっていると思いました。
（岡会長）
ありがとうございます。
（吉田委員）
いつもボローニャ国際原画展も見に行っているので、今日も展示を見られて良かったです。物販コーナーはもっとコンパクトにして、混んでいる感じを出してもよいのかなと思いました。
（岡会長）
ありがとうございます。
（安部委員）
ありがとうございました。やっぱり、絵本ってとっても温かい雰囲気があるので、岡先生が言われたスノコっていいますかね。それが、そこに作品を置いているだけでも全然見え方が違うって雰囲気はとてもよかったなと思いました。1 つですけど、同じフロアのドアを出たところに展示されている芦屋児童作品展示ですが、この場所がちょっとかわいそうかな。せっかく飾られたやつを家族が誇らしく見られるように、多分トイレが近いとか、出口のところなので、やっぱりもうちょっと入口付近のアンケート台などそういうのをこっち側にして、子供たちの作品を向こうの方にしてあげて欲しいなっていうのはちょっと感じます。以上です。
（藤山委員）
今日のやつは、先ほど森さんとお話された方が会場のデザイン構成がとても効果的だったっていうふうに思いました。基本についてはもちろんその中身をちゃんと見たりいた方が良いですが、せめて、原画が飾ってあるところに書いてあるチェコ語が何て書いてあるのかわかったり、ページが何かっていうのがわかるといいなあっていうふうに思いました。
（岡会長）
私も同じ意見ですが、森さんが、これが最初の絵本の始まりであるとかね。誰かがおっしゃったわけですよね、ああいう、ここから始まるんだ。とかね、ああいうのを、もうすこし子供たちにもわかるように、これからチェコの絵本が、始まったんだよとか、何かこう、もう「吹き出し」でもいいから、こういう印刷のところをこだわっているんだよとか。毛糸のところまで表現されているんだよとか、なんかそういう解説。つまり大人向けの美術展覧会なんですよね。ただ、子供もうもう一緒になって見られるように、それがワークシートでも構わないんですけど、これお金かかるけど、「吹き出し」で何かこうちょっとこう説明をつけていくと、展覧会も柔らかくなるし、美術展としておしゃれで。インスタレーションとしての本の陳列はかっこいいのだけど、ちょっと、自己満足っていうかですね、見せる側の部分と、子供たちが学ぶという目線は、もう少しこう低くして、それは高さだけの問題じゃなくてもう少しこう見どころをつけた方が、私どもに解説をされたようなことを付け加えていってあげれば。パネルであれば、お金はかからないですし。子供と大人、両方楽しめるような説明が要ると思います。もったいない、せっかく。その一言があるだけで例えば、ここから見てねと打ち出すとか、日本の先生方が、こちらで勉強しているんだよとか。難しい美術や歴史のことを言っても子供はわからないから、何が書

いてあるかなとか、この絵本のその特質というものをどう見せるかっていうふうな、こう見たらいいんだよっていうのを、１つあればいいなと思いました。ありがとうございました。それでは、次ですね議題は、議題３までいった。あと、その他ですね。
（事務局：中村係長）
それではですね、私の方からご説明いたします。
本日のですね、会議概要につきましては、議事録を事務局で作成後ですね、委員の皆様の方に、確認いただきまして、芦屋市のホームページでアップしますので確認の際はご協力をお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。
（岡会長）
その他ですか。議題があるわけではなくて、まだ時間ありますからここはもう言い残した、ここは聞いておきたいというのがございましたら、もうちょっと時間ございますのでご発言をいただければと思います。
（鈴木委員）
最後、岡先生おっしゃった、見せ方の工夫っていうのは、そのとおりだなと思います。でもそれをするかどうかっていうのは、展覧会に来ていただくお客様のターゲットの設定が、最初にあって、そういうターゲットを設定していれば当然そういうこと工夫するだろうし、今回はそういうターゲットの設定がなかったということだなというふうに理解をしています。
（岡会長）
大人向け用絵本展示ということであればです。
（鈴木委員）
でもまだ夏休み期間中ならターゲットを広げてもいいかなと思います。
（岡会長）
だから親子連れでくるんですよ、子供さんの方だけど親は入館料払うし、それで、高校生以下無料だけど高校生来ないし。今回の展覧会は大人の展覧会、これは巡回ですか。
（事務局）
今回のチェコ絵本の作り方展は、巡回ではございませんので、今現在では、こちらの芦屋だけの展示になります。
（岡会長）
そうなんですか。だから、これはキャプションをもっと大きくすることもできたし。
（委員）
そういうターゲット設定の企画で始められたっていうことなのですか。
（岡会長）
リトグラフなんかね、難しいとこですねそこはもう判断の時間も必要だし、大体の年齢層は大人向けでお考えでしょうか。
（事務局）
そもそも私が４月に着任してすぐ担当しておりますので、すでに企画ができ上がった段階で、私が担当しております。当初より引き継いだ当初からは聞いていることといたしましては、大人から子供まで幅広く見ていただきたいということで、作っておりましたので、岡会長がおっしゃるような、明確な、この年齢層っていうターゲットについては設けておりませんでした。
（岡会長）

いや、もう我々そんないちゃもんつけに来ているのじゃない。こう、ちょっとハイソな感じですよね。なかなかね、もう、そのベタな感じじゃないですよね。売れたものを出しているわけじゃないからね。そこはボローニャもそう。ただボローニャは、本当に根強いファンがいます。だからそこをなぜかっていうことも考えないといけないし、面白さも考えないといけません。他ありますか。

（安部委員）

やっぱり、美術博物館って全国的に少ないですよね。美術館と博物館が一緒になっているっていうのが、そこをもう少しせっかくなので、そこは何か持ち味を出していろんな展示会、展覧会で例えばその絵本の公開でもやっているんで、じゃあそこ常設展だけじゃなくて、日本の絵本だったらどんなんとか、ちょっとせっかくだから2つが関わるっていう感じで歴史の部分と美術の部分が合体したよっていう展示っていうのも考えてみてもいいのかなあというのは、いろんな展覧会なんか今まで見ていてこういう感じがするので、歴史の方でも、子供たちが見てもわかるような内容みたいな形で企画されてもいいかなっていうのは感じています。

（岡会長）

はいありがとうございます。

私ね、歴史部門のところ必ず先に見るんですよ。そしていつも思うのですが、かまどがありますよね、お酒蒸したりするやつ、かまど前のところのパネルキャプションがね、もう古いままなんですよ。あれには振り仮名を振って見せましょう。普通のパネルに直してわかりやすいようにしちゃったらいいと思うんですけど、いつもあのパネルです。動線的にもしあれだったら、絶対ないといかんというものでなかったら展覧会のときだけはもうあそこ明け渡して、美術展示してもいいと思うし、それこそフレキシブルに考えられたらいいかなと思うんですね。あそこはもう歴史部門だけじゃなくて、もうどうしてもあそこを使わないといけないようなことがあったら、ケースの中だけは違う、関連展示をするとかでもいいと思っています。ただ博物館の施設はないのかって言われるとゼロにすることはできないと。会下山のやつなんかは外すと大変ですから陳列し直さないといけないので、でもケースの中なんかは何か使えそうな気がして、もう少しうまく何かうまくできないのかなと考えます。とにかくあんまりこう固定観念にとらわれずに、もう少しこうやわらかく、少ない人員で企画を作っていって、どうしたらお客さんが喜ぶかっていうのを安いコストで考えるということを提案します。いつも私はそれを考えているのですけど、どうしたらいいかね。

（鈴木委員）

逆に私は美術の方に歴史資料を含められないかというふうに考えています。前回の浮世絵展で見させていただいた後に、浮世絵展示しているところに、例えば市内の江戸時代の出土した生活用品、燈明皿だとか、とっくりですとか、展示させてもらって出土品だけ見たらなんか理解できないのですよ。浮世絵の横に展示してもらってこういうふうに使うかっていうような、そういう使い方もできるかなっていうのが、美術と歴史が一緒になっている博物館の強みかなっていうふうに思いました。

（岡会長）

それはそうですね。もう、でもすごく大変ですけどね。

（鈴木委員）

剛腕の学芸員さんが必要かなと思います。

（岡会長）

今回は広重プラス北斎ということですね。お正月にかかっているのがいいですよね。お正月というのはいつから開けられますか。1月4日からですか。

（事務局）
1 月 5 日からです。
（岡会長）
お正月というのはね、本当に浮世絵展はなぜか入るんですよ。上手く日程調整されているということであります。4 日から初詣みたいな感じで、美術館初詣のような。ぜひうまくアレンジしてみられては？
（吉田委員）
とても広いスペースがあるので、スペースは良いなと思うんですけど、説明書きが小さくされているなと思って、展示しているのかがわからないので、大きくしてほしい。説明とかも結構小さかったので。大きくしてもいいんじゃないかなと思っております。
（事務局）
それは一般ホールのことですか。
（岡会長）
展示場の大きさとキャプションの大きさの双方だと思います。
（吉田委員）
何かもっとスペースあるのだから大きく使っても良いかと。印刷の事情とかもあるのかもしれないですけど。行くたびにここで展示をやっているのかなみたいな感じがある。よく見たらそれがあるのでもっと場所がある、空間があるかとか、空間を生かして見せるっていうのもしてもいいんじゃないかなと思いました。
（岡会長）
皆さん市民代表でご発言いただきました。ありがとうございます。それではよろしゅうございますか。じゃあ事務局にお返しいたします。
（事務局：中村係長）
先ほどお伝えしたところになるのですけれども、改めてお伝えをいたします。本日の会議内容につきましては、議事録を事務局で作成をいたしまして、委員の皆様にご確認をいただいた後に芦屋市のホームページに掲載することとなっておりますので、確認の際は、ご協力をお願いできればと思いますので、皆様よろしくお願いいたします。では以上をもちまして、本日の協議会を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。

閉会